

肺炎



発熱、咳、痰などを特徴とする、肺の感染症です。

病原体：細菌（肺炎球菌、インフルエンザ菌）やウイルス、マイコプラズマなどが主な原因です。

感染経路：病原菌は生活環境に常在しています。マイコプラズマなどは飛沫感染し、地域内で流行します。



《**症状**》発熱、咳、痰、呼吸困難などです。細菌性肺炎は重症感が強く、マイコプラズマ肺炎は乾いた激しい咳をする、などそれぞれに特徴があります。適切な治療を受ければ一般に予後の悪い疾患ではありませんが、世界的には年間約400万人の小児が肺炎で生命を失っています。

《**診断**》診察やレントゲンなどから診断されますが、病原体の診断は血液検査や痰（小児では鼻からとる）の検査で行われます。約半数で病原体は不明です。

《**治療**》当院では、専門の医学会が推奨する診療ガイドラインに即して治療しています。入院の適応は、①中等症以上の肺炎、②1歳未満、③薬が内服できない、④外来治療で改善しない、⑤基礎疾患がある、⑥脱水がある、⑦軽症でも主治医が入院を必要と判断する場合（家庭で十分に看護できない、など）です。

細菌性肺炎の入院治療は点滴と、注射薬の抗生剤、薬の吸入、などです。通常2-3日以内に解熱し、1週間くらいで退院します。3日目までに熱が下がらないときは治療法の変更が必要な場合があります、入院はその分長くなります。



※家庭での注意点※ ~ ~ ~ ~ ~

自宅療養の場合は、安静にして水分摂取（経口補水）を心掛け、医師から処方された薬を飲ませてください。食欲がなくなって食べられないことがあります。経口補水ができていれば2-3日間なら大きな問題はありません。熱が高い間の入浴は控えましょう。

学校や幼稚園、保育園へは、医師と、良くなったことを確認してから行きましょう。

外来治療で改善しない場合は入院が必要です。下記の場合は夜間でもご連絡ください。

『こんなときは早く受診を！』



・呼吸が浅く速い、横になって休めない、お腹やあばら骨の間、鎖骨の上が呼吸のたびにペコペコ凹む、小鼻がピクピクするなどの呼吸困難症状がある。

・目のまわりのくぼみ、泣いても涙が出ない、ゲッソリやつれて顔色が悪い、機嫌が悪くピリピリしている、意識がおかしい（呼びかけても反応しない）など脱水症状の悪化。